



No.439
1996年2月2日

THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Theme of Rotary International 1995-96

Act with Integrity
Serve with Love
Work for Peace

真心の行動・慈愛の奉仕・平和に挺身
1995～96年度・国際ロータリーのテーマ／ハーバードG.ブラウンR.I.会長

●本日の例会

2月2日／第448回例会

■卓話「国際文化交流の現状と課題」

財団法人国際文化会館 常務理事 加藤 幹雄氏

●先週報告

1月26日／第447回例会



滝下 嘉弘氏

■「古民家の移築再生」 ハウスオブアンティックス(株)代表取締役 滝下 嘉弘氏

■幹事報告

- ①2月定例理事会を次週例会後開催いたします。
- ②2月16日開催予定の第2回クラブフォーラムは中止させていただきます。

■青少年交換委員会(宮本委員長)

来日交換学生のレイチェルさんの4月中旬以降のホームステイ先が決定しておりません。下記の期間のホームステイに協力を頂ける方は関幹事、又は宮本青少年交換委員長までご連絡下さるようお願い申し上げます。

- a. 4月中旬より6月末まで b. 7月より8月帰国日まで
- 今回の受け入れを成功させるためにも、ホームステイのご支援をぜひ共よりしくお願い申し上げます。

■親睦活動委員会(川鍋委員長)

- ①2月6日(火)に2月火曜会を開きます。今回は柴田尚毅会員から「携帯電話の話あれこれ」というお話です。是非ご出席下さい。
- ②食べ歩きの会を来る3月12日(火)に行ないます。場所は決定次第ご案内致しますのでどうぞご予約に入れて下さい。

■慶事披露●ベネファクター表彰／保森 登君 ●誕生日祝／柴田陽三君(1月22日)

■出席報告●会員70名・出席53名・欠席17名(出席規定免除者1名)

ビジター(6名 敬称略)／柴山 武(札幌)、埜本 修(岐阜南)、矢野 弾(東京世田谷)、成瀬 勝(東京原宿)、島崎保彦、戸川正悟(以上東京南)
ゲスト 牧野吉郎氏(鍋島会員ゲスト)

ニコニコBOX

順不同・敬称略
1月26日／9件 25,000円
95～96年度累計 1,386,000円
多額のご寄付を有難うございました。

山川政樹／とても寒い日ですね。皆様ご自愛下さい。岩瀬秀郎／先週誕生祝いをありがとうございました。宮武保義／立林さん初めてのニコニコボックス当番ごくろうさまです。柴田尚毅／途中退席します。新保國彦／立林さん、初めてのニコニコ担当ご苦労様です。関 征春／荒木さんお世話さまでした。清原元輔／立林さんニコニコ担当ごくろうさまです。今年もよろしくお願いいたします。小杉真史／急な出張が入った為、卓話を聞くことが出来ません。皆様のお元気な顔を拝見し、失礼します。立林英昭／初めてのニコニコ当番です。

●2月行事予定

【ロータリー創立記念日(23日)・世界理解と平和週間(23日～29日)】

1日(木) 地区会員増強委員長会議

東海大学校友会館／会議18:00～19:30 懇親会19:30～21:00

2日(金) 定例理事会 東京全日空ホテル 1F 孔雀の間／例会後13:40～15:00

5日(月) 千代田分区会長・幹事会 東京プリンスホテル／17:30～21:00

6日(火) 火曜会 東京全日空ホテル 37F アストラル／17:30～19:30

15日(木) 第3回地区会長会 芝グランドプラザ／会議16:00～18:00 懇親会18:00～19:00

20日(火)・26日(月)

入会3年未満を対象としたR情報委員会炉辺会合 アークヒルズ・クラブ／18:00～20:00
テーマ「クラブ活動をより良く理解するために」

2月は

世界理解

月間です

●次週予告

2月9日／第450回例会

■卓話予定「入札談合事件及び持株会社解禁問題等について」

(株)三菱総合研究所 顧問 伊 従 寛 氏

■第4回クラブ協議会

テーマ「青少年交換学生とホームステイ」

と き 1月26日(金) 例会後13:40～15:20
ところ 東京全日空ホテル B1 八雲の間

●青少年交換制度を協議するに当たって

宮本青少年交換委員長

我々の2750地区より各クラブへ約3年半に一度の周期で交換学生の受入れが要請されて来ます。

現在は、昨年8月に来日した当クラブとして2人目の交換学生、レイチェル・ブレーザーさんが、青山学院高等部2年に入学して半年が経過しました。

この交換学生の滞在中は、ホームステイやカウンセラーの方に並々なぬ尽力があり、支えとなっております。レイチェルさんの4月中旬以降のホームステイが決定しておらず、皆様方のご協力を切にお願いする次第です。又、残された6カ月間に、レイチェルさんと出来るだけ多くの会員とその家族とのふれ合いの場を企画して行きたいと思っています。

●青少年交換制度の概要

柴本青少年交換副委員長

此の制度の歴史は、1929年にデンマークコペンハーゲンRCで交換制度を提案。それから10年後の1939年アメリカカルフォルニアとラテンアメリカ地区が交換を実施している。

又日本では1961年(昭和36年)九州宮崎RCとオーストラリアとの間で交換が行われたのが最初である。

2750地区も交換を熱心に取り組んできたが事務的処理が過重になってきたので田辺ガバナー(柴本地区委員)の時代に青少年交換委員会事務局を開設。委員会活動に大いに役立っている。

地区委員はガバナーの委嘱を受け3年任期を原則として活動を行っている。現在は当クラブ四分一会員が青少年交換地区副委員長として活躍されている。

1995/96年度は2750地区として受入れ学生16名(当クラブ担当1名ミス・レイチェル)派遣は21名(当クラブ担当2名塩屋さん、都築さん)となっており、日本全体では受入れ319名、派遣355名で、問題点は(1)英語圏に片よりすぎ(受入れ73.7%、派遣79.2%)及び(2)派遣学生は女子に片より過ぎ(80.6%)があげられる。

●ホームステイを引受けて

佐藤青少年交換委員

ロータリー活動の一環として留学生のホストファミリーを命ぜられるということは、単に下宿を提供するということでは決して無く、実の親と同様の責任を以て生活を共にしなければならぬことを意味している訳であり、家族全員が積極的にこれに当らなければ成果を得られない。

家庭の中で一番長時間接触するのは当然主婦ということであるから、主婦の影響を最も強く受けるであろうと思われる。従って主婦がこのことの意義を充分理解し積極的にこれに賛同し生活を共にすることが無ければ恐らく成り立たぬことで、漠然とした善意だけでは決してよい影響は与えられぬことと考えられる。

留学生を預るということ、特にロータリークラブとしてこれに対する一般論的な所謂建前論と学生個人のパーソナリティ及びホストファミリーのパーソナリティの三者が融合した形で実際の進行することになるので、紋切型の建前論では仲々律し切れない処であろうと考える次第である。

●ホームステイで得た体験

鈴木国際奉仕委員長

交換学生の来日がせまり、まだ受け入れのホストファミリーが決まらないので何とか引き受けてほしいと要請がありましたのでお引き受ける事にしたのですが、家族の説得が大変でした。

長男は高3で大学受験の真っ最中でしたし、家内は昔インドネシアのバンドン工科大学の女子学生を引き受けた時に5kgもやせて半病人になってしまった事があるので前科一犯であります。

家は小さくリビングのとなりの和室をあてがうことにしましたが、個室の文化になれた子供を受け入れられるのかと思い悩みました。

考えれば考えるほどおこわりの事はありませんが、とうとう誰も引き受ける人がいない以上、家族に事情を話して、私が頭を下げて引き受けてもらいました。

家の定長男は大学受験にその年は失敗し、当分頭があがりそうにありません。

毎日が日曜日、三食昼寝付などと主人づらしていただいていた私が、家内に感謝する気持ちを持つことが出来るようになって、今は夫婦円満にくらしています。大変だったけれども引き受けて良かったと思います。

シャリンには、次のホームステイがなかなか決まらなかったことがよほどこたえたらしく、今年は是非そのような心配はかけないようにしてあげたいと思っています。

私が学んだことは、考え始めると何も実行出来ないということでした。思いを込めて、感じるころがあれば、先ず実行するしかないことを学びました。あれこれと考え始めると何も出来ないことに気付かされました。考えるのは結果が出た後で良いと思いました。このことは仕事の上でも大変役に立っています。

●ホームステイで得た体験

田中 会員

私の家ではこれまでに長短期あわせて7～8名の留学生を預かった経験を持っています。

二人の子供たちはイギリス、アメリカへ留学し、今はそれぞれ留学経験を生かして職に就き幸せに暮らしています。おそらく留学生を預かったのが子供たちの留学のきっかけになったと思います。

家のスペースも狭く、当時は誰もが英語を十分に話すこともできませんでした。しかし留学生を預かるという大きな決断をしたために娘たちの現在の幸せがあるわけです。私も娘たちの留学を通じて大勢の外国人と友達になったり、親戚付き合いができ幅の広い人生を送れています。

アメリカ、イギリス、スイス、フィリピンに行っても、預かった留学生の家族が大歓迎してくれます。

ご家族、ロータリー自身の人生を豊かにするためにも、多くの方が留学生を受け入れられることをお勧めします。特に若い子弟をお持ちの方は将来大きな財産となって帰ってくるでしょう。

●カウンセラーとして感じたこと

渡部国際奉仕副委員長

世界における日本の評判は、最近の銀行の海外支店の不祥事もあり余り良くない。やはり日本は異質な国だというのが一般的な見方である。

その中で、まだ考えの固まっていない高校生クラスの交換学生(来日)を迎える我々ロータリアンの責任は重大である。

ホストファミリーの献身的なお世話の他、各会員の暖かい細やかなおもてなし等を通じて、国際親善の実を上げ、先ず日本での生活に融け込んでもらうことが重要である。親睦あつての青少年交換である。その意味では、今回、来日のRachel Blaserのケースは大きな成果を挙げつつ有る。

今後はさらに一步を進め、残された半年間、相互の交流を通じて、日本についての国際理解を少しづつ推進出来れば幸いである。具体的には、日本文化、日本人のモノの考え方等について、高校生の分かる範囲で的確な理解ができるよう工夫していきたい。会員各位の、それぞれのお立場、お考えでのご協力、ご支援をお願いいたします。

◆ま と め

宮本青少年交換委員長

青少年交換委員会としては、レイチェルさんが日本における一年間の滞在中で立派に成長し、多くの友人と思い出をつくり、日本に理解を深めて帰国し、そして将来、世界の平和に貢献される事を願ってやみません。今回の受入が成功に終わりますよう、交換学生に対する皆様方のご理解と暖かいご支援をお願いいたします。

出席者(36名・敬称略)

荒木、馬場、後藤、平井、伊部、入沢、石坂、岩瀬、梶内、加藤、河原、宮本、宮武、村川、二宮、大日方、佐藤、関、柴本、柴藤、四分一、島田、新保、鈴木、田島、高須、武下、田辺、田中、渡部、渡邊、山川、保森、横山、吉田、吉岡

※「上半期四大奉仕委員会・SAA活動報告」は次週(2/9)掲載させていただきます。

東京新南ロータリークラブ

会長：山川政樹 副会長：柴藤清三郎 幹事：関 征春

〒107 東京都港区赤坂 2-19-8 赤坂 2 丁目アネックス 3 階

TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂 1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

荒木 昭文、清原 元輔、青野 信次、植田 和男、後藤 信夫、新保 國彦、相澤 成憲、吉田 用親、高橋 良士、吉岡 琢磨、大村 富俊(編集担当順)